

令和 6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

宮原中学校区 校番 12

学校名 宮原小学校

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	○子どもが「分かる」「できる」授業に改善する。 貴	・単元でつけなければならない力を意識した授業づくりにおいて、自分の考えをもち、話し合う活動を取り入れたことにより、「わけをつけて表現している」と実感できる児童が増えた。 ・「知識・技能」の領域は定着、向上が見られる。「思考・判断・表現」の領域は個人差が大きい。 ・児童の目につきやすい場所に「学びのルール」を掲示をしたり、整頓が必要な理由を理解させたりしたことにより、意識できる児童が増え、自ら実践できるようになった。	・「宮原小サークルトーク」を授業に取り入れ、様々な教科の授業において、話し合いで考えを交流する場を設けていく。その際、話し合う目的を明確にした上で、話し合いの質が高まるように話題を設定したり、質問し合うための言葉を紹介したりする。 ・スキルタイムで書くことを軸にして表現する力を付けることを継続する。 ・スキルタイムや授業の中で定着の時間を確保すること、つまずきを想定した授業づくりや適応題の工夫などの取組を進める。 ・目指す姿を定期的に確認する。できたことを具体的に評価する。
**	児童に自己指導力の育成	○児童に生活のスタイルを定着させる 貴	・児童会企画委員会が作成した、挨拶のお手本動画を定期的に見返すことで、よりよい朝の挨拶が定着しつつある。一方で号令の挨拶など集団でのあいさつは意識できているが、すれ違いざまや校外の人に対する挨拶には定着に差がある。 ・玄関のくつそろえはほとんどの児童が定着しているが、プレハブトイレスリッパは乱れていることがある。 ・縦割り班そうじを継続して取り組んでいるが、掃除が定着していない児童も中にはいる。	・教職員からの挨拶を徹底していくとともに、さらに礼もできている児童への肯定的な声かけをする。 ・定期的にプレハブトイレの点検を行うとともに、スリッパチェックをしている委員会から全校への声掛けができるような働きかけをしていく。 ・縦割り掃除を継続的に行う。できていない児童には教師が具体的な指示を出す。
		○防災教育を深化させ西日本豪雨災害を風化させない	・避難の仕方や避難場所を理解している児童は、ほとんどだが、全員には至っていない。「携帯マニュアル」の印刷が見えにくいので、避難経路が理解できていない児童もいると考えられる。	・児童に配布するハザードマップが、わかりやすくなるように改善を検討する。
*	児童の基本的な生活習慣の定着と体力の向上	○基本的な生活習慣の定着	・早起きや朝食、家庭学習は概ね達成できたが、早寝とメディアに課題がある。 ・家庭によって、放課後の生活リズムが異なるため、にこにこ健康カードに設定されている寝る時刻を守りにくい実態が考えられる。メディアに対する児童や家庭での意識の差があると考えられる。	・睡眠時間の目安(○時間)を設定し、寝る時刻を考えるようにする。保健だより等で睡眠の大切さを啓発していく。 ・ノーメディア週間では、事前指導でメディアに接することなく、どう過ごすかを具体的に考え、家庭での協力を継続的に呼びかける。
		○体力を向上させる	・50m走、シャトルランにおいて、全国平均を上回る児童の割合が1学期より増えた。体育の授業における投げる・走る運動の継続や、3分間走の取組が、成果につながったと考える。	・今後も体育の授業で「投げる」「走る」運動に継続して取り組む。スタートダッシュなど、早く走るコツを教師間で共有し、授業で生かしていく。 ・タグラグビー等、限られたスペースでも、「投げる」「走る」運動を楽しく行えるよう、場の設定を工夫する。

